



大牟田の模擬訓練に見る認知症支援のこれから

「もしも...」の声かけに慣れる！

13回目を迎えた、大牟田市の「認知症SOSネットワーク模擬訓練」に行ってきた。徘徊」という言葉を昨年からは使わなくなり、現在は「徘徊」という言葉が昨年からは沖縄までおよそ60名の視察者は、前日の副市長・行政・警察・事業所・企業によるプレセッションに耳を傾け、後半のグループワークで各地の課題や大牟田で学びたいことを共有しました。模擬訓練の目的は、「認知症でも、安心して外出(徘徊は外出に変わりました。)できるまちづくり」です。現実の不明発生の際に、いち早く発見につながるように、普段から「声を掛けること」に慣れておく必要があります。(大牟田市の5つのスローガンの中には、「まちがって声かけても、笑い合える町がいい!」とあります。)そのため、不明者役との対話を事業の中心に据えており、不明者役は「道がわからなくなった。助けてほしい。」などと訴えて個別訪問もしています。

居場所づくりから見守りへ

白川校区は、9名の参加で終わった1年目の訓練を出発点と捉え、時間をかけて話し合いを続けました。結果2年目は87名が参加。2名の不明者役は、2時間歩いて35件の声掛けをもらったようですが、そのうち地域住民からの自発的な声掛けは11件で、住民間の関係の希薄さが浮き彫りになったとのこと。意見交換会を経て空家を利用した「ふれあいの場所」をつくること等を決めました。平成21年には、法人格も取得して、高齢者の困りごとに対応したり、男性が料理を振舞うサロンを立ち上げたりと次々に仕掛けています。認知症がある一人暮らしのIさん。行方不明になったこともある方ですが、地域で見守り続けるための検討会議が開かれ、住み慣れた場所で見守り続けることが叶いました。

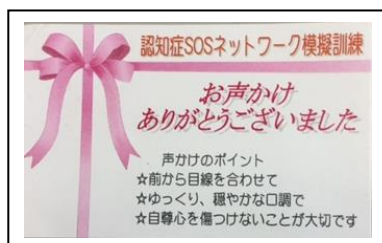
今回の視察先は、今年3月、道に迷った認知症高齢女性を、小学校5年生7人が自宅に送り届けた倉永校区(絵本学習の成果です)。特徴は、まず校区に3箇所ある拠点に集まり、直ちに自分たちで探し始めること。「探す体制を素早く取ることが発見につながる」という実績に基づいた動きです。偶然にも熱心な民生委員さんと、不明者役を発見!不明者役を追って、道をひた走りながら「声をかけるときは」正面からよ」といい続けていたのが印象的でした。 ↓下へ続く



連絡を受けて、拠点施設に集まった地域住民。地図を小分けにして、捜索エリアの打合せを行います。



「子供用のオレンジの傘」を持った不明者役に会えました。「見つけてもらってほっとしました」とこの笑顔です。



不明者役に声掛けができると、「お声かけありがとうございました」のカードがもらえます。今年から不明者役は一度見つけられても、時間いっぱい地域の中を歩き回って、多くの人が対話の練習ができるようにしています。

「となりのトトロ」がお出迎え!



「カフェ・オレンジ」の入り口トトロのお出迎えにお気づきですか?

ご本人の思いに伝える
一人のご本人の「同じ病気の仲間と語り合いたい」という声から始まった、認知症本人交流会「ぼやき・つぶやき・元気になる会」があります。「仕事がしたい」という思いを受け止めて、この度「ぼやき商會」を設立しました。最初の仕事は今年11月に発送予定の「ぼやきのちから」という卓上カレンダーの作成と販売です。6年間の活動を大牟田の認知症の取り組みとともに紹介する内容で、出来上がりが楽しみです。
大牟田の活動の特徴に「ご本人との距離がとてに近い」ことがあると思います。模擬訓練にも不明者役をサポートするコーディネーターとしてご本人が参加しました。
まとめ
認知症コーディネーター養成、絵本学習、模擬訓練、家族・本人交流会、多団体の連携、そして就労支援。「必要だから」始まった活動がそのまま大牟田の資源となり、広がりが続いていること。地域包括ケアシステムが活きた仕組みになるために、多くの人がいのちを吹き込んでいくことを肌で感じ岐路に着きました。

マスターさんステップアップ研修会（全6回）が始まります！

1期、2期、3期の「カフェ・マスター研修会」に続く企画で、どなたでも受講頂けます。認知症についての学びを深め、ステップアップを図るチャンスです。若年性認知症、特別養護老人ホーム、医療機関の様々な取り組み、介護サービス、カフェの立ち上げ、在宅医療の現状を話題として取り上げました。

多くの皆様の「ご参加をお待ちしています！」

（会場）アシスト21 5階 認知症支援・介護予防センター
「カフェ・オレンジ」

（時間）14時～16時（第3回は17時終了予定）

- 1、 10月9日（日）若年性認知症を学びましょう！（仮題）
- 2、 10月20日（木）特別養護老人ホームって どんなどころ？
- 3、 10月29日（土）介護と認知症を予防する
- 4、 11月7日（月）介護保険で利用できる サービスを学びましょう！
- 5、 11月21日（月）カフェをつくるために・・・
- 6、 11月26日（土）どうなる今後の在宅医療と介護 〓その連携、うまくいっていますか？〓

研修会のお問合せ・お申し込みは・・・

認知症・草の根ネットワーク事務局

中村 0900-2968-9463
田代 0900-7159-1133

ぜひ一緒に
学びましょー！



皆様にご協力をお願いします

「カフェ・オレンジ」の運営が始まっておよそ5ヶ月がたちました。健康づくり推進員の皆様のPRや、カフェ・マスターの皆様のお声掛けのおかげで、この間地域の皆様に多数来場頂いております。（8月は月間1,133名の来場がありました。）本当にありがとうございます。

これから先は、第2段階として、「今、支援を必要としている人、気軽に行ける場を探している人」に出会えるように活動していかなければいけないと考えておりますが、なかなか出会えていない現状があります。

皆様をお願いします。周りにご本人を抱えているご家族や、居場所を探しているMCI、若年性認知症の方がおいででしたら、ぜひ「カフェ・オレンジ」をご紹介下さいますようお願いいたします。私たちも「カフェ・オレンジ」が北九州市に根付くように、これからも頑張ってお参ります。

カフェ・オレンジの運営にご協賛頂き、ありがとうございます



- ・ 宗像市池野地区福祉会
- ・ 夢追塾同窓会三期会
- ・ 宗像市在宅介護家族の会ひまわり
- ・ ひまわりの会
- ・ NPO 研究交流会

閑話休題

台風接近中のある日、割と長い時間JR鹿兒島本線を利用した。強風による若干の遅れもあり、車内はやや混雑した状態。途中から幼児を連れだ若いお父さんが乗車して、高齢のご夫妻に「すみません。」と断って合席になり、小さな坊やもちょこんと席に着いた。

気のいい若いお父さんは、「ご夫妻に尋ねられるままに、今日二人で乗車している事情や日頃の暮らしぶりなどを答えている。大人しい坊やは、ずっと話題の中心で、（たぶん）日頃小さい子どもや、若い人とあまり接触のないご夫妻は、目を細めて相槌を打ち、話は弾む。湿った雨のにおいと人いきれで重たい車内の空気が、そこだけはさわやかだった。

他人同士が出会ったり、話したりする場面はとてまもなくなくなっている。「袖触れ合うも・・・」なんていう言葉もあるが、煩わしく思えば避けて通る方法はいく通りもある。昔のやり方に戻れば、何でも良いという訳ではないけれど、面倒くさいこと、煩わしいことがよいコミュニケーションを生み出す起爆剤だったりする。亡くなった祖母は、よく家の軒先で、「近所さんと、自慢の漬物でお茶会をしていた。隣家のご亭主の帰宅時間まで筒抜けだったけれど、孤独死はあり得なかった。

気楽な日常十ちよつこの頑張り（？）で、地域の中での安全や安心が守られたらいいのだけだ。（ま）